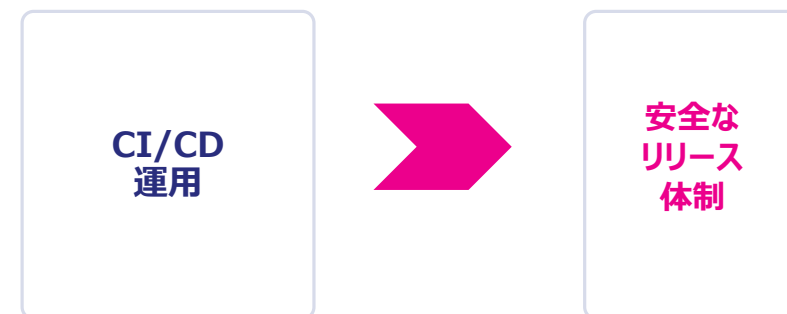


そのCI/CD、 見直し時かもしれません

CI/CD再構築 現状診断チェックリスト

8項目・約3分で、自社のCI/CD運用と「次の一手」を確認



対象：CI/CD運用を見直したい製造業の情報システム部門／DX推進部門

A | リリース運用・手動作業

- ☐ 1 変更から本番反映までに、数日以上かかっている
- ☐ 2 本番反映が、手動作業として残っている
- ☐ 3 夜間・休日に、リリース作業を行っている
- ☐ 4 リリース前の確認が、担当者の経験やチェックリストに依存している

B | 保守性・内製化・安全性

- ☐ 5 パイプラインを変更できる担当者が限られている
- ☐ 6 開発環境・ステージング環境・本番環境の差異を、明確に把握できていない
- ☐ 7 障害時の切り戻し手順に、不安を感じることもある
- ☐ 8 工場ラインや基幹系と連携しており、失敗できない前提でリリースを抑制している

チェック数: /8

0～2個

現状把握を継続

大きな見直しを急ぐ段階ではありません。リードタイム、手動工程、障害発生箇所を定期的に確認しておきます。

3～5個

見直し範囲を整理

手動で残っている工程、環境差異の有無、属人化している作業を棚卸しし、改善の優先順位を決めます。

6～8個

早めの再設計を検討

リリースの不安や保守リスクが高まっている可能性があります。本番反映、ロールバック、運用体制まで含めて確認します。

内製で進めやすい状態

- 影響範囲が限定的な小規模システムである
- チーム内にCI/CDの設計経験者がいる
- 試行錯誤できる時間と体制がある

外部支援を検討しやすい状態

- 本番までの自動化設計に不安がある
- 工場ラインや基幹系と連携し、失敗時の影響が大きい
- 属人化が進んでいる
- 改善に時間をかけにくい

診断結果をもとに、CI/CD運用の現状整理からご相談いただけます

相談フォームへ

